ONKYO®

POWERED SPEAKER SYSTEM

DP-M1

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

特長

カタログ及び包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法や仕様は同じです。

■ ハイクォリティー左右独立デジタルアンプ搭載

MONO（モノ）アンプを左右独立に搭載し、チャンネル間のノイズ混入を極限まで抑えることで高いセパレーション特性を実現しています。

■ ハイビット・ハイサンプリング(24bit/96kHz)デジタル入力対応(OPTICAL（オプティカル）/COAXIAL（コアキシャル）)

高性能Digital（デジタル） Interface（インターフェース）と高精度（±10ppm）クロックの搭載により、優れた再生品質を実現しています。

■ 高級オーディオアンプなみの品質を実現

大容量コンデンサーや再生品質を極めたAUDIO（オーディオ）コンデンサーの搭載など、高級オーディオアンプ並みの基板構成を実現しています。

■ クリアでリアルなサウンドを再生する8cmOMFダイヤフラム(OMFとはOnkyo（オンキヨー） Micro（マイクロ） Fiber（ファイバー）の略です)採用アンプ内蔵スピーカー

■ バスレフダクトにはAERO（エアロ） ACOUSTIC（アコースティック） DRIVE（ドライブ）を採用し、スピード感あふれる低域再生を実現

■ キャビネットには音質面で有利なMDF材を採用し、高級感のある光沢ピアノ塗装仕上げを施しています

■ スラント型スタンド付属

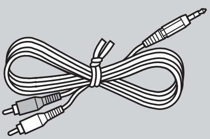
付属のスタンドを取り付けることにより指向性を高め、より最適なリスニングポジションを確保することができます。

- OMF®の名称、ロゴはオンキヨー（株）の登録商標です。

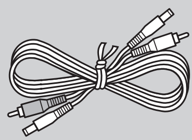
付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表わしています。

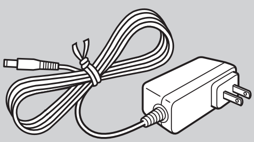
- アナログ入力用接続コード 1.5 m（1）
  ステレオピンプラグ⇔ステレオミニプラグ



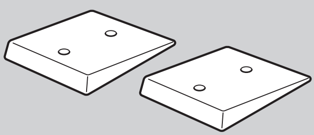
- 専用接続コード1.5m（1）



- 電源アダプター（1）
  AD-052AD015U



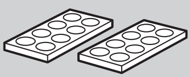
- スタンド（2）



- スタンド取り付けネジ（4）



- スペーサー 8 個（2）



- 取扱説明書（本書)(1）
- 保証書（1）
- オンキヨーご相談窓口･修理窓口のご案内（1）
- ユーザー登録カード（1）

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告	誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。	高温注意　感電注意
⊘記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。	分解禁止　ぬれ手禁止
●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。	電源アダプターをコンセントから抜く　必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源アダプターを抜く

電源アダプターをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源アダプターをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 放熱を妨げない

禁止

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない（本機の天面から2cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

⚠警告

電源アダプターのコード・プラグに関するご注意

■ 付属の電源アダプター以外の電源アダプターや外部電源などは絶対に使用しない

禁止

- 使用電圧が同じであっても、性能が異なるため本機では使用できません。万が一使用すると火災の原因となります。

■ 電源アダプターのコードを傷つけない

禁止

- コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電源アダプターのプラグは定期的に掃除する

必ずする

プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

■ 電源アダプターに布や布団をかぶせない

禁止

熱がこもり火災の原因となります。

使用上のご注意

■ 長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源アダプターに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■ 長期間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗らないでください。

■ 配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源アダプターのコード・プラグに関するご注意

■ 電源アダプターは100V(ボルト)電源で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
100V(ボルト)電源以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■ 電源アダプターのコードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源アダプターのプラグを抜くときは、コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。電源アダプター本体を持って抜いてください。

⚠注意

■ **長期間使用しないときは電源アダプターのプラグをコンセントから抜く**

電源アダプターをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ **電源アダプターのプラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む**

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ **ぬれた手で電源アダプターのプラグを抜き差ししない**

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ **お手入れの際は電源アダプターのプラグを抜く**

電源アダプターをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のためプラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■ **音量に注意する**

必ずする

- 突然大きな音が出てスピーカーを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

■ **キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない**

禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったり、データが消失することがあります。

移動時のご注意

■ **移動時は電源アダプターのプラグや接続コードをはずす**

電源アダプターをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■ **本機の上にものを乗せたまま移動しない**

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。
グリルネットやスピーカーユニット部を持って移動させないでください。

■ **機器内部の点検について**

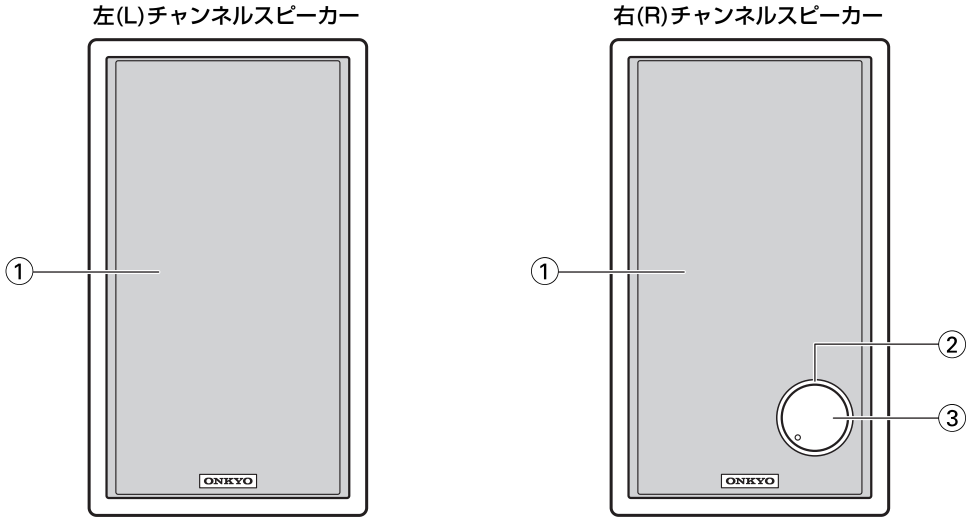
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ **本機のお手入れについて**

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

各部の名前と主な働き

■前面パネル



① **グリルネット**

ご注意
本機のグリルネットは取り外すことはできません。
無理に外そうとすると故障の原因となります。

② **電源インジケーター**

電源が入ると点灯し、切れると消灯します。

③ **電源スイッチ/音量調節つまみ**

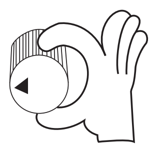
電源スイッチと音量調節つまみを兼用しています。
つまみを右に回すと電源が入り、徐々に音量が大きくなります。
つまみを「カチッ」と音がするまで左いっぱいに戻すと電源が切れます。

！ヒント

本機の電源が切れ、電源インジケーターが消灯しているときは、電源アダプターを家庭用電源コンセントに接続したままの状態でも待機電力が0.5W以下まで抑えられます。

音のエチケット

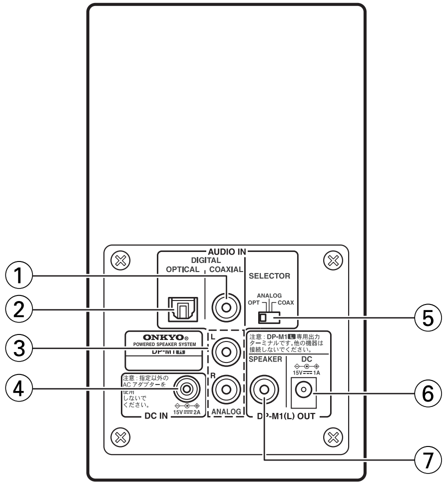
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。
特に静かな夜間には窓を閉めるのもひとつの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



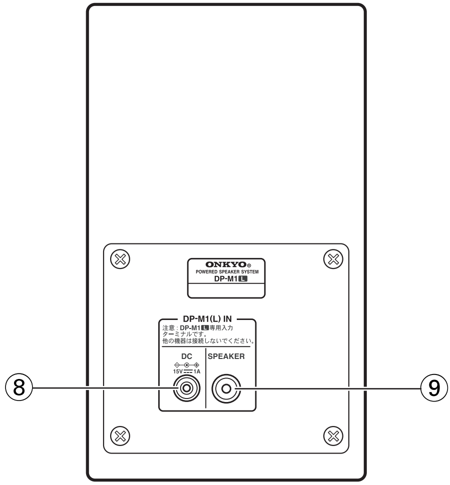
各部の名前と主な働き

■背面パネル

右(R)チャンネルスピーカー



左(L)チャンネルスピーカー



① COAXIAL（コアキシャル） IN（イン）端子

デジタル信号の入力用端子です。市販のオーディオ用同軸デジタルケーブルを使用して接続します。

② OPTICAL（オプティカル） IN（イン）端子

光デジタル信号の入力用端子です。市販のオーディオ用光デジタルケーブルを使用して接続します。

③ ANALOG（アナログ） IN（イン） L/R端子

アナログ信号の入力用端子です。付属のアナログ入力用接続コードを使用して接続します。

④ DC IN（イン）端子

付属の電源アダプターを接続します。

ご注意

必ず付属の電源アダプターを使用してください。本機に付属の電源アダプターは本機の性能や音質を十分に引き出すように専用設計されています。使用電圧が同じであっても他の電源アダプターや外部電源などは、絶対に使用しないでください。万が一使用すると、本機が故障し火災の原因となります。

⑤ SELECTOR（セレクター）(OPT（オプティカル）/ANALOG（アナログ）/COAX（コアキシャル）) スイッチ

アナログ入力とデジタル入力（OPT（オプティカル）/COAX（コアキシャル））の切り換えを行います。

⑥ DP-M1（L） DC OUT（アウト）端子

左チャンネルスピーカー背面のDP-M1（L）DC IN（イン）端子と付属の専用接続コードを使って接続します。

⑦ DP-M1（L） SPEAKER（スピーカー） OUT（アウト）端子

左チャンネルスピーカー背面のDP-M1（L） SPEAKER（スピーカー） IN（イン）端子と付属の専用接続コードを使って接続します。

⑧ DP-M1（L） DC IN（イン）端子

右チャンネルスピーカー背面のDP-M1（L）DC OUT（アウト）端子と付属の専用接続コードを使って接続します。

⑨ DP-M1（L） SPEAKER（スピーカー） IN（イン）端子

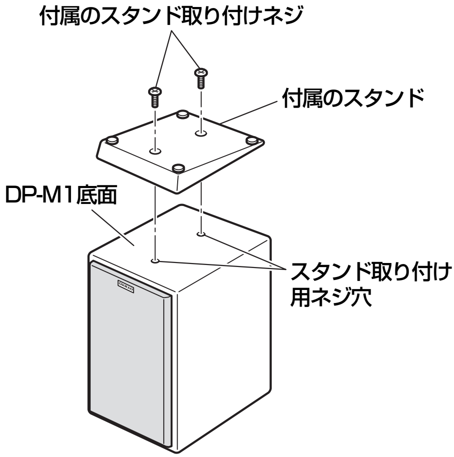
右チャンネルスピーカー背面のDP-M1（L） SPEAKER（スピーカー） OUT（アウト）端子と付属の専用接続コードを使って接続します。

付属のスタンドを使う

付属のスタンドを本機底面に取り付けて使用することができます。付属のスタンドを取り付けることにより指向性を高め、より最適なリスニングポジションを確保することができます。
取り付けには付属のスタンド取り付けネジを使用します。左右のスピーカー共に同じ方法で取り付けます。

ご注意

- スタンドを本機に取り付ける際、本機底面にコルクスペーサーが貼ってある場合は、必ずコルクスペーサーをはがしてから、スタンドを取り付けてください。
  本機底面にコルクスペーサーを貼ったままスタンドを取り付けると、音質に悪い影響を与えます。
- スタンドを取り付ける際、本機を置く場所によっては天板に傷がつくことがありますので、柔らかい布などを敷いて作業することをおすすめします。



付属のコルクスペーサーを使う

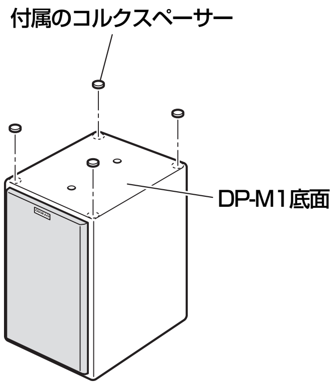
より良い音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することですべりにくく安定して設置することができます。

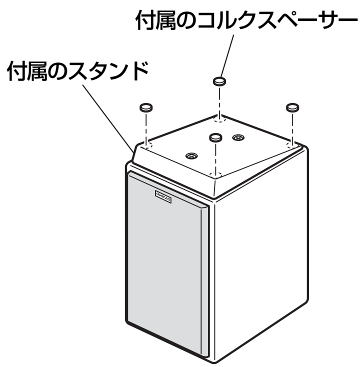
■ 付属のスタンドを使用しない場合

付属のコルクスペーサーを本機底面の四隅に直接貼り付けます。

■ 付属のスタンドを使用する場合

上記「付属のスタンドを使う」でスタンドを取り付けた後、スタンド底面に貼り付けます。



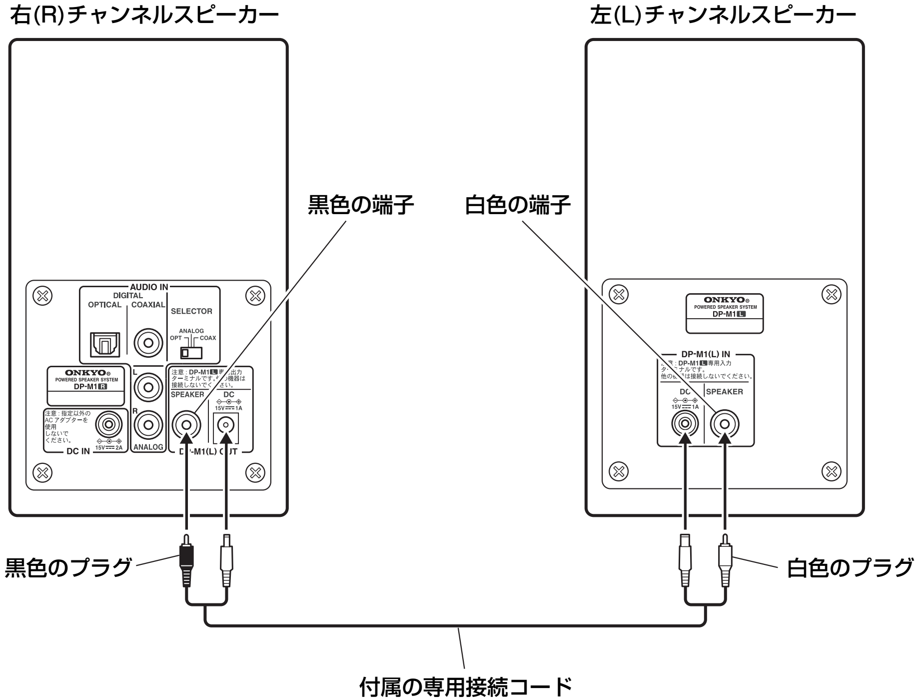


ご注意

コルクスペーサーを貼り付ける際、本機を置く場所によっては天板に傷がつくことがありますので、柔らかい布などを敷いて作業することをおすすめします。

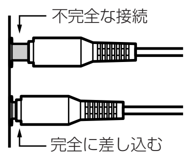
左右のスピーカーを接続する

下図を参考に付属の専用接続コードを使って、右(R)チャンネルスピーカーと左(L)チャンネルスピーカーを接続します。



ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源アダプターをコンセントに差し込まないでください。
- 電源を入れた状態で専用接続コードの抜き差しを行うと、過大入力により本機の内部保護回路が動作することがありますので、絶対に行わないでください。また、万が一内部保護回路が働いた場合の解除方法は、15ページの「困ったときは」をご覧ください。
- 電源アダプターをコンセントに差し込む前には、必ず音量調節つまみを「カチッ」と音がするまで左いっぱいに戻して電源を切っておいてください。
  また、本機に接続する他の機器の電源も入れないでください。
- 付属の専用接続コードのDC IN/OUT(イン/アウト)端子に接続するプラグは、IN/OUTを反対にすると差し込めない構造になっています。無理に差し込まないでください。
- 右(R)チャンネル、左(L)チャンネルスピーカー背面にあるDP-M1(L)SPEAKER(スピーカー) IN/OUT(イン/アウト)端子は左右のスピーカーを接続する専用の端子です。他のスピーカーやアンプは接続しないでください。
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全だと、雑音や動作不良の原因になります。

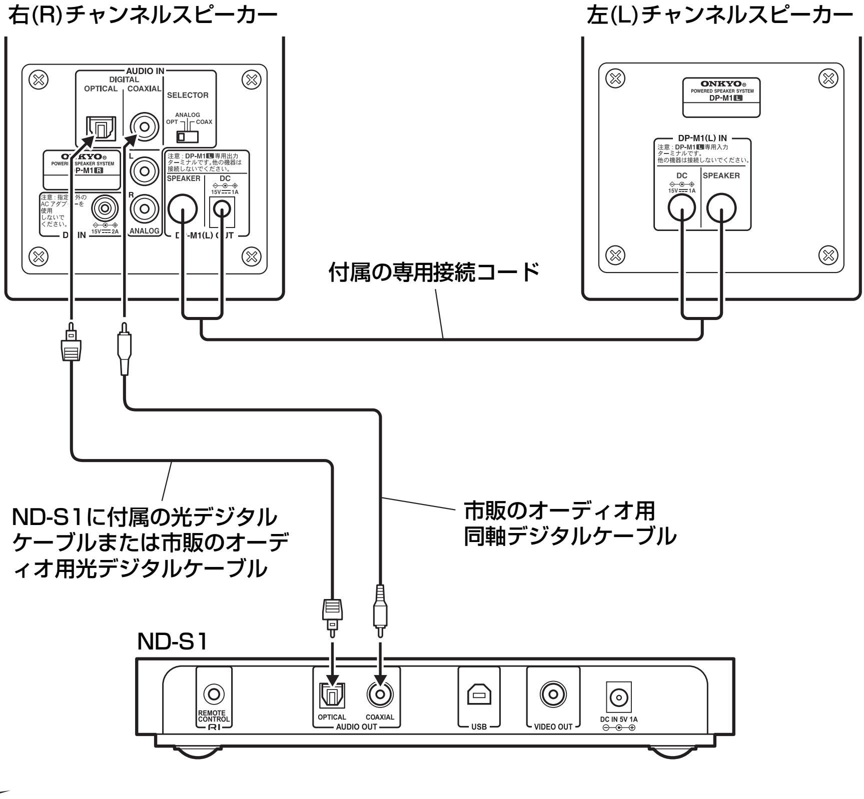


外部機器を接続する

本機には2つのデジタル入力端子（OPTICAL/COAXIAL）と1つのアナログ入力端子があり、最大で3種類の音声機器やパソコンなどを接続することができます。

デジタルメディアトランスポートND-S1を接続する

接続する際にはND-S1の取扱説明書も合わせてご覧ください。
本機の右(R)チャンネルスピーカー背面のOPTICAL INまたはCOAXIAL IN端子とND-S1のOPTICAL OUTまたはCOAXIAL OUT端子を市販のオーディオ用光デジタルケーブルまたはオーディオ用同軸デジタルケーブルで接続してください。



ご注意

すべての接続が終わるまで、電源アダプターをコンセントに差し込まないでください。

光デジタル入力端子について

本機の光デジタル入力端子はとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

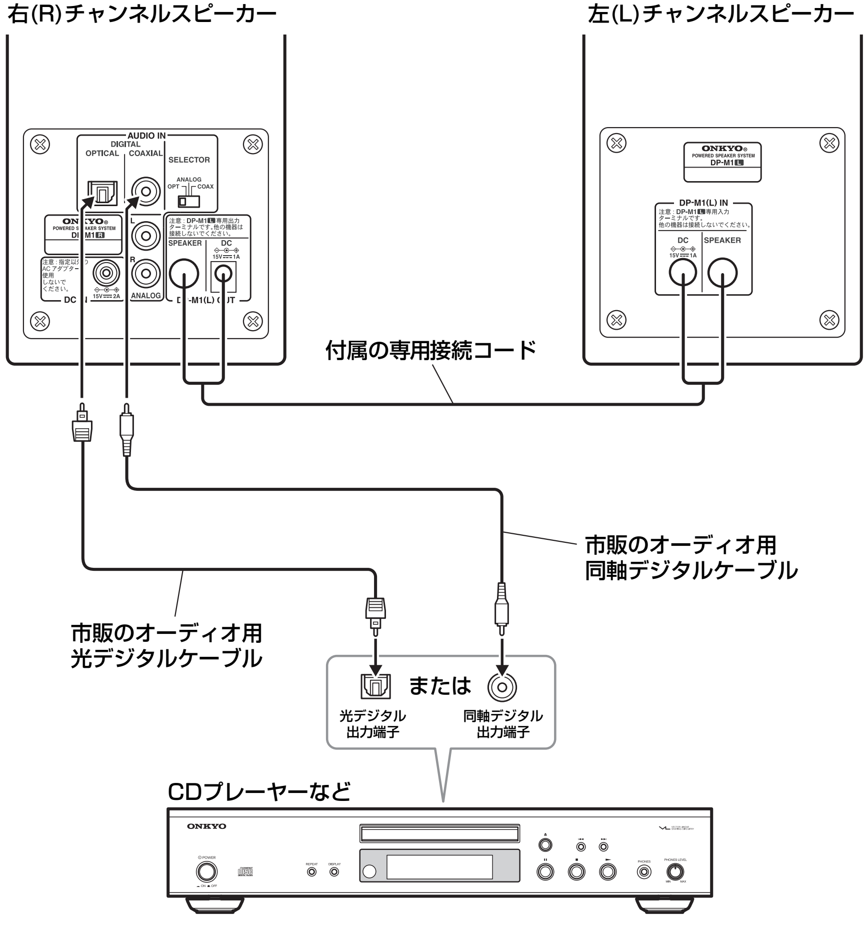
ご注意

光デジタルケーブルは、まっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

デジタル機器を接続する

オーディオ機器、パソコンまたはサウンドボードのデジタル音声出力端子と本機のデジタル入力端子を接続します。
接続する機器のデジタル出力端子を本機のOPTICAL（オプティカル） IN（イン）またはCOAXIAL（コアキシャル） IN（イン）端子に、市販のオーディオ用光デジタルケーブルまたはオーディオ用同軸デジタルケーブルを使って接続します。

- デジタル信号は、左右の音声信号が1本の接続コードで通信されます。
- 接続する機器の端子の形状に合わせてOPTICALまたはCOAXIAL端子に接続してください。

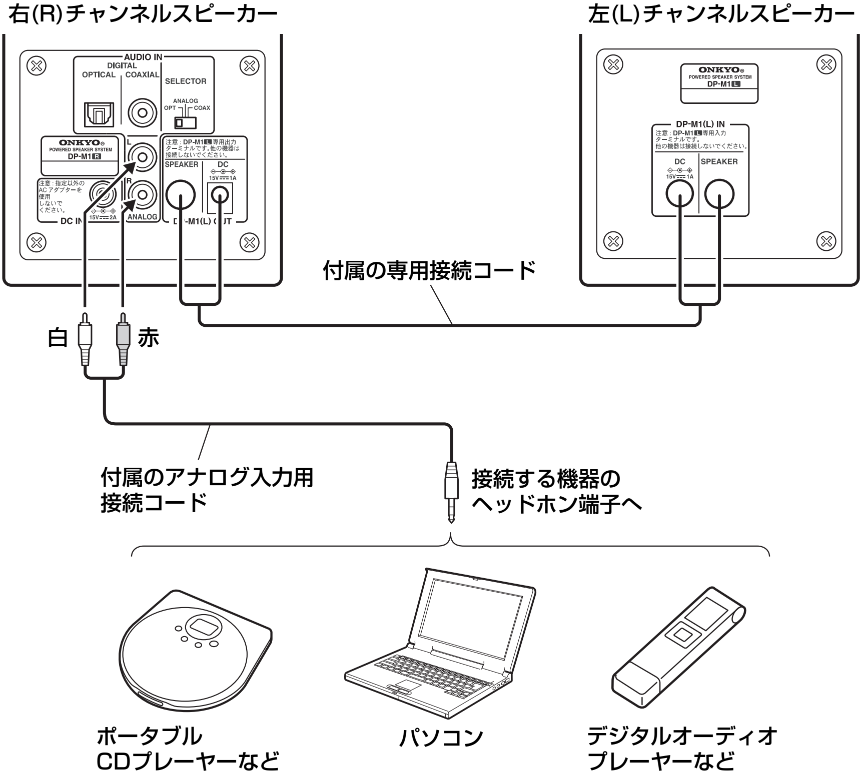


ご注意

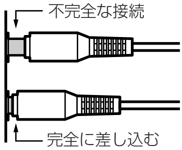
すべての接続が終わるまで、電源アダプターをコンセントに差し込まないでください。

アナログ機器を接続する

オーディオ機器、パソコンまたはデジタルオーディオプレーヤーなどのヘッドホン端子と本機のANALOG IN L/R端子を付属のアナログ入力用接続コードで接続します。（R端子には赤いプラグを、L端子には白いプラグを差し込んでください）

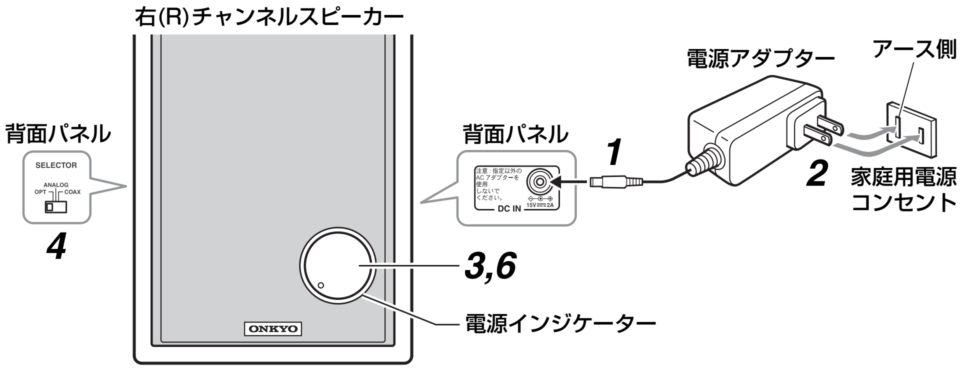


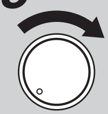
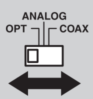
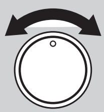
ご注意



- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全だと、雑音や動作不良の原因になります。
- 付属のアナログ入力用接続コード、専用接続コード、電源アダプターのコードは、いっしょに束ねないでください。音質が悪くなることがあります。
- すべての接続が終わるまで、電源アダプターをコンセントに差し込まないでください。
- 電源を入れた状態で専用接続コードの抜き差しを行うと、過大入力により本機の内部保護回路が動作することがありますので絶対に行わないでください。また、万が一内部保護回路が働いた場合の解除方法は、15ページの「困ったときは」をご覧ください。

音を楽しむ



1	**電源アダプターのプラグを接続する** すべての接続が完了したら、電源アダプターのプラグを右（R）チャンネルスピーカー背面パネルのDC IN（イン）端子に接続します。
2	**家庭用電源コンセントに電源アダプター本体を接続する** 電源アダプター本体を家庭用電源コンセントに差し込んでください。
3 	**電源を入れる** 音量調節つまみを右に回してください。電源が入り、前面の電源インジケーターが点灯します。
4 	**SERECTOR（セレクター）スイッチを切り換える** 再生する機器が接続されている端子に合わせて、右(R)チャンネルスピーカー背面パネルのSELECTOR（セレクター）スイッチを切り換えます。 OPT（オプティカル）：オプティカル端子に接続されている機器を再生する場合 ANALOG（アナログ）：アナログ端子に接続されている機器を再生する場合 COAX（コアキシャル）：コアキシャル端子に接続されている機器を再生する場合
5	**接続している機器を再生する**
6 	**音量を調整する** 音量調節つまみでお好みの音量にします。 **！ヒント** 接続する機器により出力の大きさが異なるため、本機の音量を最大位置にしても極端に音量が小さい場合があります。このようなときは、ポータブルCDプレーヤーなどボリュームがついている機器の場合は、再生機器側のボリュームを上げて適正な音量になるようにしてください。

設置について

- 本機を設置する場所は、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房器具の近く、湿気の多いところは避けてください。
- 本機は立てた状態で使用するように設計されておりますので、寝かせたり、傾けたりしないでください。
- 本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。
  ① オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
  ② 専用接続コードやピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音
  （抜き差し時は必ず本機の電源を切ってから行ってください。）
  ③ マイク使用時のハウリング
  ④ カラオケ等で使用した際の過大な音声出力
- スピーカーと設置場所との間は面接触より点接触のほうが一般的によい結果が得られます。またガタツキがあると質の良い低音が得られなくなりますので付属のスペーサーやコインのような金属板を使ってガタツキがなくなるようにしてください。
- 本機の背面部はご使用の状況により、高温になることがあります。カーテンなどの可燃物への接触や、火傷にご注意ください。

防磁設計について

一般にテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどのデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。本機は、（社）電子情報技術産業協会の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合には本機をテレビから離してください。また近くに磁石など磁気を発生するものがあると、本機との相互作用によりテレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

お手入れについて

表面は、時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤を薄めた液に、柔らかい布を浸し、固くしぼって汚れをふきとったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
グリルネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

キャビネットについて

本機のキャビネットの塗装はピアノ仕上げになっています。ピアノ仕上げのキャビネットのお手入れは、市販されているピアノクリーナー（鏡面ツヤ出し用）をご使用ください。塗面に付いた手アカや汚れをすっきり取り、美しい光沢に仕上げます。お手入れ後はホコリや手アカが付きにくくなり、付着しても乾拭きで楽に取れます。

主な仕様

仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

形式：アンプ内蔵フルレンジ･バスレフ型
入力インピーダンス：15kΩ
入力感度：200mV（VOL、MAX時）
実用最大出力：10W+10W（4Ω・JEITA）
定格周波数範囲：50Hz～20kHz
キャビネット内容積
Lチャンネル：1.1リットル
Rチャンネル：1.0リットル
外形寸法
Lチャンネル：102(W)×175(H)×141(D)mm
（グリルネット、ターミナル突起部含む）
Rチャンネル：102(W)×175(H)×148(D)mm
（グリルネット、ターミナル突起部含む）
質量
Lチャンネル：1.1kg(本体のみ)、1.2kg(スタンド取付時)
Rチャンネル：1.2kg(本体のみ)、1.3kg(スタンド取付時)
使用スピーカー
ウーファー：フルレンジ8cm OMFコーン型
外部入力端子
デジタル入力×2（光：1/同軸：1）
アナログ入力×1（RCAステレオ）
デジタルINサンプリング周波数
32、44.1、48、96kHz/24bit対応
電源：100V（50/60Hz）
消費電力：4.5W
その他：防磁設計（JEITA）
スタンド取付時の外形寸法
Lチャンネル：102(W)×194(H)×155(D)mm
Rチャンネル：102(W)×194(H)×161(D)mm

困ったときは

下の表で点検してみてください。接続した他の機器に原因がある場合もありますので、他の機器の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	●電源アダプターのプラグの差し込みが不完全。	●電源アダプターのプラグをコンセントにしっかり差し込んでください。（13ページ）
音が出ない。	●音量調節つまみが最小になっている。 ●アナログ入力用接続コードや専用接続コードの接続が不完全。 ●SELECTOR（セレクター）スイッチの位置が不適切。 ●入力ピンプラグまたはデジタルコードのプラグがはずれている。	●適当な音量にしてください。（13ページ） ●アナログ入力用接続コードや専用接続コードを正しく接続してください。（9～12ページ） ●正しい位置に合わせてください。（13ページ） ●ピンプラグまたはデジタルコードのプラグを正しく接続してください。（9～12ページ）
電源インジケーターが点灯したまま、音が出なくなる。	●過大入力が本機に入ったため、内部保護回路が働いた。	●次の方法で解除してください。 1.音量調節つまみを「カチッ」と音がするまで左いっぱいに戻し電源を切ります。 2.電源アダプターをコンセントから抜き、10秒間待ちます。 3.電源アダプターを再度コンセントに差し込みます。 4.音量調節つまみを右に回し電源を入れ、音量を調節します。 ※必ず再生機器側の音量を最小にしてください。
電源インジケーターが点滅する。	●過大な入力が本機に入力されている。	●過大な入力が本機に入ると電源アダプターの保護回路が働き、電源の供給が途切れます。その場合には、本機の音量調節つまみを左に回して調整するか、再生機器側の音量を下げて適正な音量になるように調整してください。
音が小さい。	●音量調節つまみの位置が不適切。	●正しい位置に合わせてください。（13ページ）
片方のスピーカーからしか音が出ない。	●接続が不完全。	●アナログ入力用接続コードを正しく接続してください。（12ページ） ●専用接続コードを正しく接続してください。（9～12ページ）
ブーンというハム音が入る。	●テレビ等からの誘導雑音。 ●アナログ入力端子の接続が不完全。	●雑音源より離してください。 ●アナログ入力用接続コードを正しく接続してください。（12ページ）

- **低域や高域を極端にブースト（増強）したり、低域や高域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号音以外に異常な音を発生する場合があります。これは、故障ではありませんが、このような状態で長時間ご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので、音量を下げてご使用ください。**
- **本機のデジタル入力はステレオ信号のみに対応しています。DVDの5.1ch信号（ドルビーデジタルやDTSなど）は絶対に入力しないでください。本機のアンプやスピーカーユニットが故障する原因となります。**

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お 名 前
- ▶ お 電 話 番 号
- ▶ ご 住 所
- ▶ 製 品 名 DP-M1
- ▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 　　年　　月　　日
ご購入店名： ____________________
Tel.　　（　　）
メモ：
- -
- -
- -

ONKYO®
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　10：00〜18：00
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

G1006-1

SN 29400453

29400453